

脳神経外科 /1999 年

脳神経外科医長 徳 光 直 樹

診療スタッフ

平成 11 年の脳神経外科は、開設以来同様の常勤医 3 名が診療にあたりました。1 月～3 月までは佐古和廣副院長以下、山本和秀医長と大浅貴朗医師の 3 名が診療を行いました。4 月以降は山本・大浅の両者がそれぞれふらの西病院、札幌東徳州会病院に異動、入れ替わり徳光直樹と白井和歌子医師が赴任し現在に至っております。

外 来

午前中は月曜から金曜まで佐古と徳光の二診で、午後からは月曜・水曜の定期手術日以外を一診で対応いたしました。平成 11 年の外来新規登録患者数（過去に一度でも受診経験のある患者は含まない）は 1646 名で、平成 10 年の 1549 名と比して約 100 名増、1 日平均外来患者数は 53.7 人で前年の 46 人に対し 16.5% 増でした。また脳外科関連の救急外来受診患者は 316 名で、この内 210 名（66.5%）が入院での対応を要しました。

入 院 ・ 病 棟

1 月～3 月は 3 階東と 4 階西の 2 病棟に計 19 床で運営。4 月からは 2 階西病棟が増設され胸部心臓血管外科と泌尿器科が移転したため、3 階東の 1 病棟となり 27 床に増床され現在に至っております。平成 11 年の入院患者数は 369 名で、平成 10 年の 350 名と比べわずかな増加に止まりました。なお入院患者 369 名中脳卒中患者が 189 名であり、その内脳梗塞患者 97 名で全脳卒中患者の 51.3% を占めておりました。

病床数が 19 から 27 まで約 42% 増となったことを考えると、あまり満足の出来る数字ではなかったと思われます。さらに 3 階東の 1 月～11 月までの平均在院日数で見ると、平成 10 年が 21.9 日であるのに対し平成 11 年は 29.0 日と延長して

おります。（ただ 10 年と 11 年では、4 科混合病棟と 2 科混合病棟の違いがあり単純には比較できませんが・・・、しかし脳外科患者だけで在院日数を算出するとさらに延びてしまうというのも事実でしょう・・・）つまり増床分のベッドは亜急性期から慢性期患者のリハビリに充てられ、特に急を要さない検査・手術予約の患者には、依然として相当お待ちいただいているというのが現状です。ちなみに 98 年 / 脳梗塞急性期医療の全国調査では、平均在院日数が 41 日で 74% の施設で 1 カ月を超えていたとされており、療養型病床をはじめとした後方支援施設の慢性的不足が大きな問題となっております。今後も各科への空床利用・各病院への転院依頼など何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、何とぞご理解・ご協力の程お願い申し上げます。

手 術 症 例

平成 11 年手術総数は 151 例でありました。平成 8 年までは年間 100 ～ 110 例前後であり、平成 9 年以降 150 ～ 160 例前後でほぼ安定しているようです。おもな手術の内訳は以下の通りでした。

平成 11 年脳神経外科手術（1 月～ 12 月）

総数 151（全麻 104 例、局麻 47 例）

脳動脈瘤手術 30 例（未破裂動脈瘤 9 例）

脳腫瘍摘出術 11 例（経蝶形骨洞手術 1 例）

脳動静脈奇形摘出 1 例

血行再建術 7 例

浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術 3 例

内頸動脈血栓内膜摘除術 3 例

椎骨動脈移行術 1 例

脊椎・脊髄疾患手術 0 例

顔面神経微小血管減圧術 1 例

開頭頭蓋内血腫除去術 23 例
 脳内血腫除去術 12 例 (外傷性脳内血腫 1 例)
 急性硬膜下血腫除去術 6 例
 急性硬膜外血腫除去術 5 例
 定位脳内血腫吸引術 4 例 (神経内視鏡使用 1 例)
 減圧開頭術 2 例
 頭蓋形成術 11 例
 脳室-腹腔シャント術 13 例
 慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術 40 例
 穿頭脳室ドレナージ術 4 例
 その他の手術 4 例

急性期経動脈的血栓溶解術 8 例
 頭部外傷患者の低体温療法 1 例

今後の目標・展望

脳神経外科開設から 8 年が経過し、この間諸先輩のおかげで外来患者・入院患者・手術件数とも徐々に増え、ここ 3～4 年ほぼ安定した症例数となりました。また平成 11 年 11 月からは脳神経外科専門医訓練施設 C 項から A 項へ昇格し、今後診療の質的向上はもちろんさらなる症例数の増加も要求されます。そのためにはバランスのとれた 3 本柱 (脳血管障害・脳腫瘍・脊椎 (髄) 疾患) の診療を目指さなくてはならないと考えております。またヘリカル CT 導入 (3D-CTA) により外来でより質の高いスクリーニングが可能となり、現状ではいささか弱かった未破裂動脈瘤などの無症候性脳血管病変に対する対応等の向上が期待されます。

今後も各科・各病院の先生方、コ・メディカルの皆様の変わらぬご協力をお願い申し上げます。

麻酔科 平成 11 年 (1999 年)

麻酔科医長 小 瀧 正 年

【スタッフ】

現在常勤 2 名である。今年は昨年 10 月から勤務していた辻口直紀医師が研究のため 8 月末で急遽札医大へ戻り、代わって 9 月から渡辺政徳医師が後を引き継いでいる。渡辺は推定 100kg (以上?) の堂々たる体格に少年の眼差しを持つ好青年で、当院にも大分なれ更なる活躍が期待される。一方、医長の小瀧は当院 2 年目で、最近衰えてきた髪の毛と視力を気にしながら安全麻酔を心掛けている。

【診療】

麻酔科管理手術

総数 1032 (定時 774 臨時 181 緊急 77)
 内訳

整形外科	274 (定時 176 臨時 87 緊急 11)
外科	237 (定時 200 臨時 26 緊急 11)
耳鼻咽喉科	172 (定時 163 臨時 8 緊急 1)
胸部外科	137 (定時 94 臨時 25 緊急 18)
脳外科	107 (定時 52 臨時 26 緊急 29)
産婦人科	63 (定時 55 臨時 4 緊急 4)
泌尿器科	28 (定時 25 臨時 1 緊急 2)
皮膚科	9 (定時 8 臨時 0 緊急 1)
眼科	5 (定時 1 臨時 4 緊急 0)

ペインクリニック

延べ総数 41 (新患者 7)

疾患	治療
突発性難聴	3 星状神経節ブロック 25
陳旧性術後痛	1 薬処方 11
三叉神経痛	1 診察のみ 4